

アフリカの貧困削減に貢献したい



アフリカ部企画役
(TICAD・開発政策分析担当)
吉澤 啓
YOSHIZAWA Kei

1985年、旧JICA入団。93年、旧通産省出向中にTICAD Iに参加。モロッコ事務所その他、OECD/DAC事務局などの勤務を経験。2008年のJICA・JBIC統合以降、アフリカ部でTICADや開発政策分析を担当。

先進国と開発途上国の格差の問題を問い続けてきた吉澤啓さんは、長年、アフリカの貧困削減に携わってきた。第6回アフリカ開発会議(TICAD VI)の開催を前に、アフリカ支援にかける思いを新たにしている。

アフリカと共に歩んできた JICA人生

私がJICAに就職を決めたのは、学生時代から、先進国と開発途上国の格差を解決したいと思っていたからです。開発援助は、政治や経済、社会、科学技術など幅広い分野に横断的に取り組むことができるので、その点も魅力でした。

JICAに就職して約30年、これまで、アフリカ部、企画部、モロッコ事務所、青年海外協力隊事務局、旧通産省・OECD/DAC事務局への出向など、さまざまな部署と業務を経験してきました。キャリアの半分を超える20年間はアフリカと共に歩んできたと言えるでしょう。

アフリカが貧困を極めていた1990年代初頭、私はニジエールやシエラレオネ、ルワンダなどの西アフリカ・中部アフリカ地域を中心に担当していました。このころは、日本国内ではまだまだ現地の情報が手に入りにくかったのですが、現地、それも地方部の奥地まで足を運び、人々の暮らしや貧困の実態を見てきました。その原体験が、今のアフリカ支援業務の活力につながっているのだと思います。

旧通産省出向の後には、第2回アフリカ開発会議(TICAD II)の担当、OECD/DAC事務局への出向など、貧困解決に向けた援助政策の動向分析や事業の計画立

案といった開発の上流部分に携わることが多くなりました。

根本的な貧困削減をアフリカに希望を

現在、アフリカ部で私が担当しているのは、マクロ経済や開発政策、援助政策の動向分析、TICADで打ち出すイニシアチブや数値目標の検討・進捗把握などです。また、この8月に、ケニアの首都ナイロビでTICAD VIが開催されるので、今はその準備に注力しています。

TICADが始まった90年代初頭、日本国内のアフリカ地域への関心は低く、援助業界の中でもTICADに注目する人は多くはありませんでした。それが現在では、首相官邸や各省庁、国会議員、民間企業など、さまざまなアクターが協力して会議を開くようになり、時代の大きな変化を感じています。

アフリカでは、2000年代以降の経済成長に伴い、貧困人口(1日1・90ドル以下で暮らす人々)は減少に転じているものの、今なお3億人以上が貧困ライン以下にあると言われています。今起きている資源価格の下落などが長引けば、再び貧困層が増える可能性も否定できません。

今のアフリカに必要なのは、貧困層に焦点を当てた援助と、それと並行した社会全体のインクルーシブな開発を通じた根本的



海上保安に関するプロジェクトでジブチを訪れ、ソマリア沖海賊対策の一環としてジブチ沿岸警備隊に供与された巡視艇を視察した

な貧困削減です。TICADを通してJICAがアフリカの援助方針や事業計画を鍛え上げ、それを発信・実行していくことが重要です。さらに、援助以外にも日本がアフリカにできることはたくさんあります。さまざまな立場の人にアフリカの重要性を知ってもらいたいと考えています。

先進国と途上国の間の格差は正、貧困削減、そして、アフリカの人々が将来に希望を見出せること——、それが私の「初心」です。自分の生活の基盤である家族や日本社会への貢献・恩返し気持ちを大切にしながら、これからも初志貫徹を心掛けたいと思います。



国連開発計画(UNDP)のアフリカの構造改革に関するシンポジウムで発表する吉澤さん